


 受賞の言葉

さわだ やすゆき

1999年スタンフォード大よりPh.D.(経済学)を取得。2012年より東京大大学院経済学研究科教授。67年生まれ。



うえだ みちこ

2006年マサチューセッツ工科大よりPh.D.(政治学)を取得。12年よりシラキュース大リサーチ・アシスタント・プロフェッサー。1973年生まれ。



まつばやし てつや

2007年テキサスA&M大よりPh.D.(政治学)を取得。13年より大阪大准教授。1977年生まれ。



エビデンスに基づく自殺対策をめざして

東京大学教授 澤田康幸

言うまでもなく、自殺は現代日本における最も深刻な社会問題の1つである。2006年に「自殺対策基本法」が制定され、それ以降、国を挙げた自殺対策が本格化し、地方自治体や民間団体も様々な取り組みを行ってきた。自殺に関する学術研究も、主に精神医学や疫学・心理学などの分野において優れた研究成果が蓄積されつつある。

このような状況のもとで、経済学者・政治学者である筆者らがあえて新たに自殺問題について研究をしてきたのは、従来の取り組みには、その背後にある社会・経済・政治的な要因についての視点が欠けており、社会科学者が取り組むことでより有効な自殺対策に資するという意見で一致したからである。

どのような社会経済環境が自殺を引き起こすのか、自殺に対する政策介入はなぜ必要なのか、そしてどのような介入が効果的なのか。本書では「個人の問題としての自殺」という見方を超えて、自殺とは「社会的あるいは経済的な背景の解明と、社会全体への介入を必要とする政策課題」であることを、先行研究や筆者らが独自に行った統計分析から、徹底した実態把握によるエビデンス(科学的根拠)に基づいて論じた。

とはいえ、本書の分析内容からもわかるように、エビデンスの蓄積はまだ緒に就いたばかりであり、自殺問題の氷山の一角に光を当てたばかりという感がある。今後こうした方向をさらに推進・加速する必要がある。今回、荣誉ある賞をいただいたことを胸に、更なる研鑽を積んでいきたい。